

アットホームカップ2023 第21回インディペンデンスリーグ
全日本大学サッカーフェスティバル
中国地域派遣審判員(岡山商科大学)
山根 晴喜

○期間・スケジュール

<11月27日~12月1日>

11月27日：移動(13:00 浦和プラザホテル集合)、TR、競技規則テスト

11月28日：MTR、一回戦(13:00KOのA1担当)、振り返り、研修会

11月29日：MTR、二回戦(13:00KOのR担当)、振り返り、研修会

11月30日：MTR、準決勝(12:00KOのA2担当)、閉校式

12月1日：決勝(12:00KOのA2担当)、解散、帰宅

○派遣審判員

北海道1名、東北1名、関東2名、東海1名、関西2名、中国1名、福岡1名の計9名の審判員が派遣されました。以前茨城で一緒になった審判員が3名いたのでとても心強かったです。



11月27日

岡山を朝7時に出発して13時に宿泊するホテルに到着して、競技規則テスト、開幕前研修を終えて、プラティカルトレーニングを実施しました。FKマネジメント、主審と副審の協力関係についてでした。自分の課題や他の審判員の良かったところをすぐ他の審判員と話せるのでとても良いTRでした。岡山の学連でも実施してみたいと思いました。

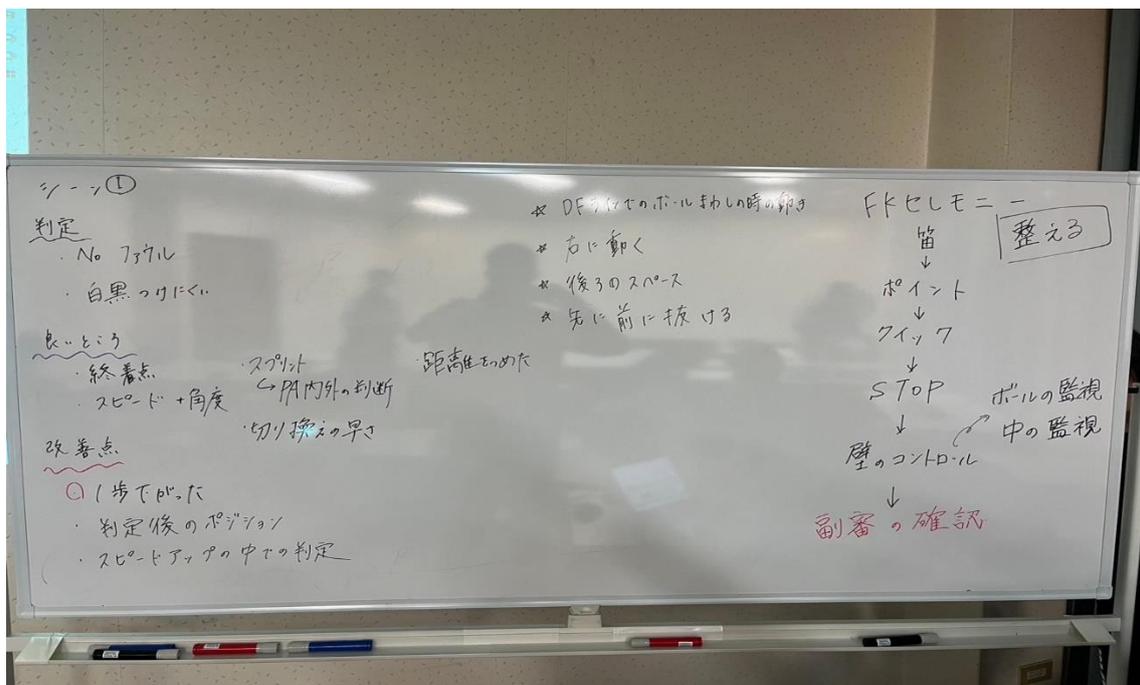
○11月28日

@清瀬内運動公園サッカー場 Aコート 13:00KO 一回戦

大阪体育大学 I VS 中京大学 U20

R 外池颯真(関東) **A1 山根晴喜(中国)** A2 倉持葵羽(関東) 4th 加藤清二(関東)

A1を担当しました。一回戦ということもあり少し緊張していましたが、振り返ると試合を通して90分審判団4人集中して終えることができました。しかし僕は大きなミスを起こしてしまいました。HTに主審の判定に対して「もっとファウルとったほうがいいんじゃない?」と言ってしまいました。振り返りの中でもありましたが、この行為は主審の判定基準をずらしてしまう、一貫したレフリングがなくなる可能性がある事を考慮できていない行為です。これは審判をする以前の問題で、私の人間としての未熟さからの発言だと思いました。これは絶対に改善しなければならない事です。試合後に主審の方には個人的に謝罪をしました。夜は審判団だけでの研修会を行いました。



○11月29日

@清瀬内運動公園サッカー場 Bコート 13:00KO 二回戦

新潟医療福祉大学 D VS 八戸学院大学 U-22B

R **山根晴喜(中国)** A1 別府朋香(九州) A2 吾味隼一(関東) 4th 本多太郎

Rを担当しました。全国大会で担当する試合は担当したことがないチームが殆どなので、試合開始10分でチームの特徴、キーマンの選手などの情報をとらえます。これによって、ポジショニングやマネジメントの仕方を選手によって変えることが目的です。新潟はCFにキープできる選手がいて。ロングボールが多かったので、CBとCFの争

点を見たかったので、少し高めにポジショニングしました。それに対して八戸はカウンターが多かったので、予測をしてスプリントを増やすことで争点に近く寄ることができました。とても両チームインセンシティが高くさすが全国大会だな、と思うような試合で楽しかったです。振り返りでは、「後半になったら新潟がCFが中盤の選手に落として再度に展開するシーンが多くなったよね。でもボールを落とす位置に主審がポジショニングすることが多かったかな。」とおっしゃっていただきました。確かに争点に近すぎる場面が多かったと自分で振り返って感じました。後半になってチームはポジションや戦術を変更してることが多いのでそれも理解することでもっと良いポジショニングができると思いました。夜の研修会でも出ましたが「サッカーを理解することの重要性」が話の中で出ました。

○11月30日

@清瀬内運動公園サッカー場 Bコート 12:00KO 準決勝
大阪体育大学 I VS 新潟医療福祉大学 D

R 木村翔太(関西) A1 遠藤尊流(東北) **A2 山根晴喜(中国)** 4th 加藤清二(関東)

A2を担当しました。Rの木村さんとは4日間同部屋だったのでとてもスムーズに試合中でもアイコンタクトやコミュニケーションが取れました。試合前に木村さんに「お前もこと意外に俺信頼してるから。」と言われたのがとても印象に残っていて、素直にうれいのもありましたが、試合前にこうゆうことを言ってくださるとすごく自信を持って試合に挑むことが実際にできたので、試合前のコミュニケーションもさすがだなと思いました。90分で決着がつかずPK戦になりました。A2サイドで行われたので僕がゴールラインの監視をしました。ゴールが決まったら主審とアイコンタクトを取り「入ったよ」と伝えました。副審でのPK戦は初めてだったのでとても良い経験になりました。一本オフサイドのフラッグアップが速かったのが反省点です。



○12月1日

@AGF フィールド 12:00KO 決勝

大阪体育大学 I VS 関西学院大学 B1

R 木下心(関西) A1 塩津将真(東海) **A2 山根晴喜(中国)** 4th 外池颯真(関東)

A2を担当しました。まさか自分が決勝戦の割り当てを頂けると思っていなかったのが驚きましたが、自分的には岡山でやるリーグ戦、中学校の試合と何も変わらないので、いつも通りやるだけだったのであまり緊張はしていませんでした。むしろ楽しみでした。前半カウンターで主審と争点が遠くペナルティーエリアの中か外か際どい判定がありました。私は主審が間に合っていないことが情報としてあったためファウルが起こったらサポートしようと思っていたらファウルが起きたので、それがペナルティーエリア外だったので打つ合わせに合った通りにファウルが起きたライン、場所でステイして主審に「ペナルティーエリア外だよ」と伝えることができました。ファウルサポートも一本ありました。試合終了のホイッスルが鳴った後選手たちはピッチに倒れこんでいました。どれだけこの大会にかけてきたかがわかる瞬間だったと思います。これでサッカー人生に終止符を打つ選手も少なくはないでしょう。その瞬間に審判員として立ち会えたことがものすごくうれしくて、試合後勝ったチーム、負けたチームがお互い健闘を称えあっている姿を見て感動しました。そして僕ら審判団4人もすごく良いチームだなと思いました。アセッサーも方にも「いい審判チームだったよ」と言ってくださいました。



○最後に

この度はアットホームカップ 2023 第 21 回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバルに派遣していただき、ありがとうございました。中国サッカー協会、中国大学サッカー協会、中国大学サッカー連盟、全日本大学サッカー連盟の皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。私自身初めての全国大会の派遣審判員で、緊張していると同時に楽しみがありました。中国を代表していくことに対する緊張と、全国のトーナメントを勝ち抜いてきたチームの審判ができる楽しみの二つがありました。私はこの研修で学んだ事が 2 つあります。1 つは「人間として成長する事」です。この大会を通して自分がまだ人として未熟であることに気づかされました。人として成長することで同時に審判員としての成長に比例すると思うのでまたこのような大きな大会に審判員としていけるように成長したいです。2 つ目は「その行動に明確な自分の意見を持つ事」です。研修会の中で、「～さんが言っていたから」、「～がこうしたほうがいいよってゆってたから」という発言が多かったです。じゃあなんでこうしてるの？って聞いてみたら明確は理由がない方が多かったです。アセッサーにこう言われたから、と言っていたら自分自身の成長に繋がらないと思います。私の意見は様々な方から聞いたアドバイスや助言を自分がかみ砕いて、自分のものにするこの行為をする意味の明確な理由が出で来ると思えます。これは審判員だけの話ではなく、社会に出たとき、今後生きていくうえで重要な知識だなと感じました。またこのような大きな舞台に審判員として派遣していただけるように精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



今回派遣された審判員の皆様